



直安

安富源次郎、藏人下総權守

了心入道

同岩崎村地頭並びに薩州高城郡大津の
不寸久。肥後国大野別府中村の内母の
譲りを受ける
探題今河伊予入道了俊に属し軍忠す

七代
泰行

安富弥三郎 修理亮

初名弥三郎泰次、中比比修理亮泰繼
肥前国高来郡深江村 肥後国大野別府
岩崎村、薩州高城郡内大津不寸久父の
譲を受ける

八代
泰清

安富兵部少輔 深江村、岩崎村の地頭

船越三郎

養子、献幸入道

恩房丸

養子、福井八郎之子

女子

養子、喝食センセウ女

五代
深江遠江守

探題渋川右兵衛佐満頼の下
知状を帶す

九代
泰貞

安富民部少輔 文龜三年ころ

十代
貞直

安富但馬守 正佐入道

十一代
純治

安富伯耆守法名行雲実夫 先租累
代の地 高来郡深江城居住天正十
二年甲申五月十五日有家に於て戦
死（沖田噺戦で島原浜の城加番）

純俊

安徳上野介、純親
初名安富三郎右衛門尉 直雪
安徳上野介養子、嫁其の女
養父直治 永録六年癸亥十二月
二十八日伊佐早梅津に於て戦死の
後家督を継ぐ安徳居住

十二代
純泰

安富下野守動叱入道 与三兵衛尉
法名 源昌悟仙
龍造寺隆信に属し天正十年より同十二年至り
居城に楯籠り軍功抽きんず、同十二年旧領を去り
藤津に居住、元和六年庚申正月二十一日卒去、
室安徳上野介の女

以下略

十三代
重しげ升ます

安富橋右衛門、深江と改 初名助四郎（九歳の時龍造寺へ人質に出る）
寛永二十九年乙未八月十六日卒去

藤右衛門尉

同名下野守一味 藤津に至り居住

安富河内守

有馬左衛門佐政純 日州に赴
き高中に於て死去

純生

安富左兵衛尉 純清 徳田入道
有馬義純に属し高来居住

新七郎

父とと同じく有家に於て戦死
沖田駿戦で浜の城へ加番